



【今回の兼題】

- ① 雛まつり
- ② 木の芽



紀美

○わんぱくの雛段の前かしこまり
 枯草に緑混じりて春きざす
 雨粒のイルミネーション木の芽雨

迪子

○齢重ね木の芽吹くのに感じ入り
 ひな飾り気力追い込み七段を
 ○潔く未練投げ捨て落椿

綾子

○春移動隅の机に矜持あり
 白木蓮風の噂に傷ついて
 ○句読点なく落ちてくる春の雨

哲也

○桃の日の駐輪場に雨の音
 ○白球を掴み取る音名の木の芽
 夕風や穢れを知らぬ雛菊を

文子

○焼け出され雛の道具おままごと
 お気に入り服を繕う木の芽雨
 ○山独活の棘も香りも口に満つ

農子

○ラジオから朝の一時「ひなまつり」
 自由にとみもぎの切枝塀の側

初江

○絵ろうそく灯るリビング雛の日
 木の芽風へアドネーションした髪に
 ○ベランダに猫抱く少女花ミモザ

ゆの

○春愁をナスカの鳥と分かち合う
 おぼろ夜は廊下の奥を覗きます
 ○たんぼの祭境界線はないらしい

丞子

○雛段を机がはばむ子供部屋
 木の芽時十月に記す初ひまご
 ○トランプのカード紛失春の間

瑞枝

○雛となり稚子の巡行町起こし
 黄水仙香りを束に娘は母へ
 ○木の芽吹く稚渾心の一步かな

郁子(土)

○木々の芽のほどける色のそれぞれに
 病室の母に手造り雛飾り
 港の灯うるむ春宵波の音

えり

○お彼岸の田舎ばた餅館ころろ
 ○内裏雛白い面が灯にゆるむ
 ○牛小屋は茅葺なりし木の芽雨

志津子

○朝ごとに空を目指して木の芽のび
 ○アネモネや今もやっぱり青が好き
 草引く手止めてはるかに山桜

富子

○姫様の薄紙はいで春來たる
 木の芽立ちラジオ体操十七人
 桜咲く夫は還らず三分咲き

郁子(岡)

○春光や幸せ祈り孫嫁ぐ
 ポップポップポポはお紅のごと山笑う
 一番のり開花宣言高知城



山下 正雄 作品

○木々芽吹くアイロン台は滑走路
 バスを待ち少女の恋の芽生えおり
 いつまでも母には子ども桜餅

★次回市民句会

【開催日時】

令和八年四月二十二日(水)
 午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

【兼題】

① 花衣 ② チューリップ
 (他の題材でも構いません)

【初めての方へ】

○市民句会は、俳句愛好者の集いです。
 どなたでも自由にご参加いただけます。
 事前申込や参加費は不要です。

